

氏名	辻本 健	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	小児看護学				
学位	博士（看護学）				
学歴	2024年自治医科大学大学院看護学研究科博士後期課程修了				
経歴	2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教 2024年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	日本小児がん看護学会、日本小児看護学会、日本小児保健協会、日本看護科学学会、 埼玉県立大学保健医療福祉科学学会				

【2024年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌 雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	小児がんで入院中の中学生と高校生への看護における困難	共著	あり	小児がん看護, 19(1), 61-71.	前田貴彦, 辻本健	2024年9月
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	維持療法期間における急性リンパ性白血病の「病気である我が子の生活を確立しつつ、自分の生活を立て直す」親の体験	共同	日本小児保健協会学術集会（北海道）	○辻本健、横山由美	2024年5月	
2	小児がんで入院中の中学生と高校生への看護における困難	共同	日本小児がん看護学会学術集会（京都）	○前田貴彦, 辻本健	2024年12月	
3	小児期発症の慢性疾患患児の移行期支援に対する看護師の認識と支援状況	共同	日本看護科学学会学術集会（熊本）	○前田貴彦, 辻本健, 東岡史	2024年12月	
4	小児がんの終末期にある思春期患児に対する看護実践	共同	日本がん看護学会学術集会（北海道）	○前田貴彦, 辻本健	2025年2月	
5	A Scoping Review of PTSD in Parents of Children with Pediatric Cancer	共同	2025EAFONS(韓国)	○辻本健、前田貴彦、横山由美	2025年2月	
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間		
1	日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究	退院後の小児がん患児をもつ両親のレジリエンスの概念構築	研究代表者	2019.4～2025.3		
2	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）	AYA世代の小児期発症慢性疾患患者の包括的看護支援ガイドラインの開発	研究分担者	2022.4～2026.3		
3	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）	退院後の小児がん患児をもつ親のレジリエンス向上のためのケアモデルの開発	研究代表者	2023.4～2026.3		

3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)
1	小児看護学Ⅱ	○	8	<p>科目責任者としてシラバスの作成を行い、科目の構成および内容について企画した。本科目はオムニバス形式で実施しているため、各教員の専門性に配慮した担当配置を行い、各担当教員と打ち合わせを重ねながら内容を組み立てていった。また、ゲストスピーカーの依頼および調整も担当した。講義としては、「血液・腫瘍疾患をもつ子どもと家族の看護」と「End of Lifeにおける子どもと家族の看護」を担当した。</p> <p>「血液・腫瘍疾患をもつ子どもと家族の看護」では、主な血液・腫瘍疾患の症状、観察ポイント、治療法、そして子どもおよび家族への看護の必要性とその方法について理解を深められるよう、動画や紙芝居、絵本などを用いて、視覚的にもイメージしやすい対面講義を行った。</p> <p>「End of Lifeにおける子どもと家族の看護」では、子どもの認知発達や体験に応じた死のとりえ方、子どもと家族の体験および看護のあり方について、動画を用いて理解を促した。さらに、授業内でグループワークを取り入れることで、多角的な視点からの看護の検討が可能となるよう授業を構成した。</p>
2	子どもの保健		9	<p>講義2コマ担当、演習2コマは主担当した。「良くみられる子どもの症状への理解と対応」、「病気をもつ子どもと家族」に関する講義を行った。看護学科の学生ではないため、動画や絵本を用いて学生がイメージしやすいように工夫した。また、演習2コマの「バイタル測定」「内服支援」においては主担当を行った。演習内容の企画、演習物品の準備、整備、演習室の設営を行い、学生が子どもに興味を持ちバイタル測定できるよう、子どもの特徴を伝えるなどの工夫をした。レポート評価やワークシート・レスポンスカードのコメントを行った。</p>
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)
1	小児看護学Ⅲ		15	<p>3グループ(学生23名)を担当し、グループ討議や学習を通して、川崎病を発症した子どもとその家族に対する看護の必要性や方向性を、学生自身が討議の中から見出せるよう支援を行った。</p>
2	小児看護学Ⅳ		15	<p>「輸液管理」「清潔ケア」において演習の主担当を行った。演習物品の準備、整備、演習室の設営を行った。学生が事例の子どもと家族への小児看護技術を主体的に習得できるように支援した。レポート評価やワークシート・レスポンスカードのコメントを行い教育に参画した。</p>
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)
1	小児看護学実習		2024.9.10～9.19 .11.12～12.19 (2単位90時間 ×4クール)	<p>学生24名を担当し、子どもの安全を守り、個々の学生に合わせた実習指導を臨床指導者と連携を図りながら行った。</p>

2	総合実習		2024.7.9～7.26 (3単位180時間)	学生4名を担当し、実習前の事前ゼミにおいて、学生個々が探求したい課題を明確にし、総合実習計画書を作成できるよう指導した。病棟の状況によって学生の課題に沿った受け持ち患児が持てない中、個々の学生が課題とする看護が実施できるよう、また、看護の効果を確認できるように臨床指導者と連携を図りながら指導を行った。
3	IPW実習		2024.9.30～10.4 (1単位45時間)	学生6名を担当し、円滑に実習が進むように実習施設のファシリテーターと事前に、また実習を進めながら調整を行った。学生達のグループワークにおいて、進み方に合わせて、ファシリテートしたり、指導したりし、発表に至るまでを支援した。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2024.4～2025.1	主指導	2名 副指導 名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	該当なし			
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	性・エイズ講演会	群馬県	「性の健康 性感染症予防と避妊」	2024.10
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	該当なし			
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし	日本看護科学学会	看護学研究者ナビ	2025.3
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	入試実施部会		2024.4～2025.3
2	学科等における委員会等	看護学科 実習計画調整		2024.4～2025.3
3	大学広報活動	看護協会主催「看護への道」		2024.5
4	大学広報活動	オープンキャンパス		2024.6・2024.8
5	大学広報活動	高校訪問		2024.6
6	学生支援	担任（進路などの相談・支援）		2023.4～2025.4
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
	該当なし			